

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、考えたことを適切に相手に伝える。 話し手の意図を感じとりながら聞く。 ただ文章を書くだけでなく、構成や内容を工夫した文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話す・聞く活動において、話す内容や順序をじっくり考えさせ、メモなどを作ることで、内容を確定させる。適切な言葉を用いて、自信をもって発表できるように指導をする。 聞く時に気持ちを切り替える時間を作り、集中して話が聞けるようにする。聞く時の観点を示し、目的を持って聞けるようにする。 文章を、始め—中—終わりに分けて、構成を決めてから文章を書く。 友達と文章を見合い、アドバイスをする時間を設け、自分の作文にいかせるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料集やインターネットなどの情報を活用して、調べ学習をすすめ、答えを導き出す。 与えられた情報をもとに、社会の動きを考え、日本の生産業、工業について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料集、インターネットの内容を一度全体で把握し、調べる指針を打ち出してから活動を行う。 必要な情報を集め、それを全体で発表し合うことで、考える視点を定め、そこから答えを導き出すという学習の流れを意識させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立体に関心をもち、既習事項を生かして求積したり、小数や分数を活用してより正確に考えようとしたりする。 立体に関心をもち、既習事項を生かして求積したり、小数や分数を活用してより正確に考えようとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な構造物と学習で扱う立体を関連付けて扱い、4学年で学んだ小数や分数の考え方を適応することでより正確に体積等を求められることの良さに気付くことのできる活動を設定する。 身近な構造物と学習で扱う立体を関連付けて扱い、4学年で学んだ小数や分数の考え方を適応することでより正確に体積等を求められることの良さに気付くことのできる活動を設定する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって観察や実験を行い、自分の考えをまとめられる。 科学的な知識をもち、見出した課題に対し計画的に追究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察方法や実験方法をわかりやすく提示し、一つ一つ自分の考えをまとめる時間を確保する。 身近な天気や発芽の様子を用いて、知識を高める。また、課題解決のための流れを全体で確認をしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題の解決の仕方を考えて、運動に取り組む。 運動の楽しさや喜びにふれ、技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを効果的に使い、自分の力を確認して、課題を解決できるようにする。同じくらいの力をもった友達と練習する場を設けて、話し合いながら練習方法を工夫できるようにする。 色々な場やルールを作り、ただ行うだけでなく、楽しみながら運動できる空間を設定する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の登場人物の立場にたって考えたり、自分なりの考えを発表し合ったりすることで、様々な状況をイメージし、よりよい関わり方を考えられるようにする。また、道徳の時間だけでなく、普段の生活から思いやりの心をもてるように声かけ、指導を行う。

総合	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、主体的に課題解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもてるものを中心とした大まかな課題を設定し、そこからグループや個人の課題を見つける時間を確保する。課題解決のために、小グループで相談する時間を大切に、様々な案を出させ、取捨選択させることで、よりよい解決策を見つけられるようにする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシン、裁縫道具などの正しい使い方を覚え、簡単な小物を作る。 ・栄養素などを知り、食事の大切さに気付く。 ・家族の一員として自分ができる家事にとりくんだり、お金の使い方を考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、基本の縫い方、針や糸の扱いを分かりやすく示していく。玉結び、玉留めなど授業の中で繰り返し取り組ませ確実に習得させる。時には保護者ボランティアも募り、個別対応を助けていただく。 ・視覚的な要素を取り入れて、5大栄養素を含む食品や、栄養の効果などを理解できるようにしていく。給食の献立表なども活用し日常生活の中でより理解を深めていく。 ・家族のために自分ができることは何考え、意欲的に取り組んでいけるように課題提示を工夫したり、取り組みカードなどを作成したりしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声やリコーダーの響きに気を付けて演奏しようとする。 ・歌声や楽器の音だけでなく、練習の合間の指示等を理解し、演奏に役立てようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級を半分に分けて聴き合う時間を取ったり、自分たちの演奏を録音して聴いたりする時間を取る。 ・指示等は簡潔で分かりやすく行うようにする。大切な内容は繰り返し伝える。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをもち、深めて、最後まで思いをもって取り組む。 ・自分なりのこだわりを持ち、作っていく過程で色々なやり方をためしながら、よりよい工夫を見つける。 ・他者の作品から、自分なりに良さや美しさを感じとり、感じ方の違いや共通点を伝え合うことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作途中で鑑賞の時間をこまめに設ける。また、集中が途切れがちな児童には、個別に指導・支援にあたる。 ・あまりせかさずに、各々のペースを見守る。様子を見て、必要があれば個別に声をかけたり、授業外の制作時間を確保したりする。 ・発言型や記述型など様々な鑑賞の形を取り入れる。発表に関しては、こちらで計画的に指名する形を取り入れながら指導にあたる。